

平成二十一年度
高等学校入学者選抜学力検査問題

第一部

国語

注意

- 1 問題は、**一**から**四**まであり、7ページまで印刷してあります。
- 2 答えは、すべて別紙の解答用紙に記入し、解答用紙だけ提出しなさい。
- 3 問いのうち、「……選びなさい。」と示されているものについては、ア、イ、ウ、……の記号で答えなさい。

一

次の詩を読んで、問いに答えなさい。

(成本和子「ねむねものひつじ」による)

問一 表現上の技巧として体言止めが用いられているのは、第何連と第何連ですか。

問二 第三連で描かれている、アゲハ蝶が決められた過程を経て羽化していく様子を、^{ひっ}比喩を用いて表している一行を、第三連以外の連から書き抜きなさい。

問三 この詩について説明した文として最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア アゲハ蝶が羽化し飛び立つまでの様子が、敬体を用いて親しみやすく描写されており、また、アゲハ蝶を擬人化することで、作者の、未知の世界に旅立つ者への祝福や、永遠の別れを惜しむ気持ちが効果的に表現されている。

イ アゲハ蝶が羽化し飛び立つまでの様子が、常体を用いて断定的に描写されており、また、受け身を表す語を用いることで、作者の、人間として生まれてきたことへの感謝や、運命に従う素直な気持ちが効果的に表現されている。

ウ アゲハ蝶が羽化し飛び立つまでの様子が、文語体を用いて格調高く描写されており、また、受け身を表す語を用いることで、作者の、自然の力へのおそれや、定められた運命に対する不安な気持ちが効果的に表現されている。

エ アゲハ蝶が羽化し飛び立つまでの様子が、口語体を用いてわかりやすく描写されており、また、アゲハ蝶を擬人化することで、作者の、生命の神秘に対する感動や、小さないのちをいつくしむ気持ちが効果的に表現されている。

二

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

(井上靖「しろばんば」による)

問一 ――線1を漢字で書きなさい。また、――線2、3の読みを書きなさい。

問二 〰〰線1「洪作は傍に唐平が……思いの中にはいつていた」とありますが、このとき洪作は、どのような想像をしていたのですか。七十五字程度で書きなさい。

問三 〰〰線2「祖父はもうそのことからは思いを移している風で」とありますが、祖父は、どのようなことから、どのようなことへ思いを移している様子だったのですか。最も適当なものを、ア―エから選びなさい。

ア 長い間顔を合わせることがなかった洪作の成長ぶりから、洪作たちをもてなすことへイ 黙って頭を下げたときの洪作の緊張ぶりから、唐平がここに来る途中で言ったことへウ 洪作に会ったのはいつだったかということから、糸さんに洪作たちを案内させることへエ 洪作と唐平とではどちらの背が高いのかということから、糸さんが姿を現したことから
問四 洪作が糸さんから聞いた祖父の業績は、大きく二つに分けることができます。その二つの内容を、糸さんが話した順に、それぞれ一文で書きなさい。

問五 〰〰線3「はた木などそれまで……美しく見えた」とありますが、この表現からどのようなことを読みとることができますか。最も適当なものを、ア―エから選びなさい。

ア 孤独な生活に対する洪作の関心の高まりを読みとることができる。

イ 豊かな自然に対する洪作の感動の深まりを読みとることができる。

ウ 洪作が祖父を誇らしく思い始めている気持ちを読みとることができる。

エ 洪作が糸さんを信頼しようとしている気持ちを読みとることができる。

三

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

(中川元「世界遺産・知床がわかる本」による)

問一 ― 線1、2を漢字で書きなさい。また、―― 線3の読みを書きなさい。

問二 〰〰〰線1「恩恵に浴している」とありますが、この意味として最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア 恵みを期待している

イ 恵みに飢えている

ウ 恵みに貢献している

エ 恵みを受けている

問三 〰〰〰線2「流水の海のメカニズムは、……上げてくるのです」とありますが、筆者は、深海にたまった栄養分が浅いところまで上がってくるのは、流水の海のどのようなメカニズムによると述べていますか、七十五字程度で説明しなさい。

問四 〰〰〰線3「知床の海は、シベリアの自然とも深くつながっている」とありますが、筆者がこのように述べる理由を、次のようにまとめるとき、 ①、②に当てはまる表現を、それぞれ文中から書き抜きなさい。ただし、①は二十五字、②は十五字とします。

①

②

河口付近の大陸棚の栄養分を、 から供給された栄養物質や が、オホーツク海の南端に位置する知床の海まではこんでくるから。

問五 この文章の段落と段落の関係について説明した文として最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア 5の段落では、2の段落で説明した事実から問題を指摘し、その根拠として筆者の実体験を挙げている。

イ 7の段落では、3の段落で提示した問題の答えを明らかにし、その答えに関連した現象を説明している。

ウ 9の段落では、8の段落で説明した研究成果を踏まえ、その成果を実際に確認する方法を提示している。

エ 10の段落では、1の段落で提示した調査結果を踏まえ、その結果の分析から新たな課題を指摘している。

四

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

これは、中国の董遇^{とうぐ}という学者と、彼に学ぼうとした人とのやりとりが書かれた文章です。

人^{ひと}從^{したが}ひ学^{まな}ぶ者^{もの}有^あるも、遇^ぐ教^{しやう}ふるを肯^{かへ}んぜずして云^いふ、「必ず当^{まさ}に先^まづ読^よむこと百^{ひゃく}遍^{べん}なるべし。」と。言^いふは、説^{せつ}書^{しよ}百^{ひゃく}遍^{べん}にして義^ぎ自^{おのづか}ら見^みるるなり。

從^{したが}ひ学^{まな}ぶ者^{もの}云^いふ、「日^ひ無^なきを苦^く渴^{かつ}す。」と。遇^ぐ言^いふ、「当^{まさ}に三^{さん}余^よを以^もてすべし。冬^{ふゆ}は歳^{とし}の余^{あま}り、夜^よは日^ひの余^{あま}り、陰^{いん}雨^うは時^{とき}の余^{あま}りなり。」と。

(李^り瀚^{はん}「蒙^{もう}求^{きう}」による)

(注) 人^{ひと}從^{したが}ひ学^{まな}ぶ者^{もの}有^あるも——董^{とう}遇^ぐに從^{したが}つて学^{まな}ぼうとする者^{もの}があつても。

遇^ぐ——董^{とう}遇^ぐ。肯^{かへ}んぜずして——承^{じやう}諾^{だく}しないで。云^いふ——言^いう。

日^ひ無^なきを苦^く渴^{かつ}す——書^{しよ}物^{ぶつ}を読^よむ暇^{ひま}がなく、困^こつています。

問一——線「読^よ書^{しよ}」と同じ構成の熟語を、ア、イから選^えびなさい。

ア 日^ひ没^{ぼつ} イ 低^{てい}温^{わん} ウ 往^{わう}復^{ふく} エ 避^ひ難^{なん} オ 推^{たい}薦^{せん}

問二——線「人^{ひと}從^{したが}ひ学^{まな}ぶ者^{もの}有^あるも」とありますが、このように読^よむことができる漢文として正しいものを、ア、イから選^えびなさい。

ア 人^{ひと}有^ある 從^{したが}ひ学^{まな}ぶ者^{もの} イ 人^{ひと}有^ある 從^{したが}ひ学^{まな}ぶ者^{もの}

ウ 人^{ひと}有^ある 從^{したが}ひ学^{まな}ぶ者^{もの} エ 人^{ひと}有^ある 從^{したが}ひ学^{まな}ぶ者^{もの}

問三 この文章の内容に合^あうものを、ア、イから二つ選^えびなさい。

ア 人^{ひと}に教^{しやう}わつたことを肯定的に受^うけ入れれば、多くの書^{しよ}物^{ぶつ}を読^よまなくても学^{がく}問^{もん}の意^い義^ぎが理^り解^{かい}できるようになる。

イ 人^{ひと}に教^{しやう}わる前にまず自^{みづか}分で書^{しよ}物^{ぶつ}を繰^{くりか}返^へして読^よめば、そこに書^かかれてい^いることの意^い味^みが自然^{しぜん}とわかつてくる。

ウ 人^{ひと}よりも先に百^{ひゃく}冊^{さく}の書^{しよ}物^{ぶつ}を読^よめば、自^{みづか}分^{ぶん}から人^{ひと}に教^{しやう}えることができるほど多^{おほ}くの知^ち識^{しき}が身^みに付^つくものである。

エ 時^{とき}間^{かん}をもてあます冬^{ふゆ}や夜^よ、また雨^{あめ}降^ふりの時^{とき}などには、今^{いま}まで読^よめなかつた書^{しよ}物^{ぶつ}を三^{さん}冊^{さく}は読^よみたいものである。

オ 時^{とき}間^{かん}がないとあきらめるのではなく、冬^{ふゆ}や夜^よ、また雨^{あめ}降^ふりの時^{とき}などを利用して書^{しよ}物^{ぶつ}を読^よむことが大切^{たいせつ}である。

**正
答
表**

(注) 正答表に示された事項以外のものについては、学校の判断による。